令和５年度学校評価の結果をふまえた今後の改善方策

【今年度の学校評価の分析】

生徒については、ほぼ全ての評価項目の数値が向上し、保護者の評価項目においても、ほとんどの項目で昨年度よりも向上している状況である。教職員については、昨年度よりも向上した評価項目が全体の 44%、横ばい 32%、下がった評価項目が 24%という状況となっている。今年度は、コロナウィルス感染前と違い制約や制限を受けず、通常の学校運営に戻っての教育活動は、生徒、保護者にとっては充実した学校生活を送れているという傾向が反映されているのではないかと分析する。また、保護者から見る「学力を高める学習指導」、「生徒の意欲的な学習の取り組み」、「情報モラルや携帯電話・インターネットの適切な活用」、学校の大きな柱である「地域の期待に応える教育活動」が昨年に引き続き横ばいとなっている。また、生徒では、「生徒間のコミュニケーション」が昨年に引き続き横ばいとなっている。

現在、昨年度からほぼすべての評価項目が向上している点については、コロナから通常に戻ったことによる改善と考えられるため、より一層充実できる活動を計画中である。

今年度は、教職員において「開かれた学校づくり」、「生徒指導体制の充実」、「基本的生活習慣の確立」「人権教育の充実」、「特別活動の充実」、「防災・安全教育」の評価項目が下がっている。学校の大きな柱である高校生ふるさと貢献活動事業や学校行事等、教育活動を通じて地域との連携を図る点や防災・安全教育の点については、例年との変化に乏しい点や校外に向けての広報の不足、また、生徒指導において取り組んでいる取組について成果が上がらない点に対して評価が下がっていると考える。

「学校運営全般」、「教職員の資質向上」、「情報教育」、「共通理解と指導の統一」、「健康教育」、「教育相談」等の評価項目については、昨年から横ばいの状況となっているため、次年度は、改善を目指しての取組を実践する。

【改善方策】

今年度の学校評価の結果を踏まえ、今後の改善方策として、次年度に以下の取組を実施する。

１　組織的な学校運営の推進

拡大学年団の配置について

拡大学年団配置上の工夫により「各部・学年・学科の連携を図り、校務分掌が組織的に機能している。」という評価項目の数値は、昨年度に引き続き横ばいとなり同じ評価となっている。

令和６年度も拡大学年団配置に際して以下の工夫を継続する。

(1)　各学年の授業を担当している教員を優先的にその学年に配置する。

(2)　新入生の学校不適応に対処するため、１学年に保健部長、養護教諭を配置する。

(3)　３学年に進路指導部長と昨年度の３学年及び教務部長を配置する。

※　教員配置予定

	学年団	拡大学年団	合計
１学年	8	7	１５
２学年	8	7	１５
３学年	8	7	１５

２　教員の資質向上について

本年度も授業評価アンケートを実施し、指導法の改善に取り組んだが、授業改善「魅力ある授業に向けた実践的指導力の向上に努めている。」という評価項目の評価は昨年に引き続き横ばいとなり同じ評価となっている。コロナから通常へ戻り、若い先生方の PC を活用した公開授業、ベテランの先生方による公開授業を実施することで研修の機会を設けたり、BYOD 一人一台端末の活用とよりわかりやすい授業への取り組みは実践できているものの成熟度がまだまだ不足しているという評価であると考える。

また、資質向上に向けた各種研修を積極的に実施したが、「学校の諸課題について校内研修を計画的に立案・実施し、専門性の向上を図る」という評価項目の評価のは昨年度より向上している。

そのことを受けて、令和６年度は以下の取組を行う。

(1)　授業評価アンケートを踏まえた分析と指導法のさらなる改善。

(2)　公開授業や研究授業のより一層の活性化。

(3)　兵庫県立教育研修所等が主催する、キャリアステージに応じた教員の資質向上に向けた各種研修会、各学校で実施されている発表会への積極的参加とそれを基にした校内研修会の推進、また、外部講師を招いての教員対象校内研修会の実施に取り組む。特に、BYOD が始まってから生徒１人１台端末を持参することになり、タブレット端末をはじめとする教職員の ICT 活用能力のさらなる向上を目指す。

３　地域の中学校の要望と生徒指導の視点を反映できる学校評議員の委嘱

令和３年３月で退職された地域の中学校長が、現在、佐用町教育委員会に所属していることから、令和４年度から学校評議員として委嘱し、中学校の要望をより吸い上げるとともに生徒指導の視点からの意見を反映できる学校評議員会の委員構成とした。